生成AI時代におけるオープンソースソフトウェア開発の進め方

大規模なAIによる貢献に備える

メンテナーの59%（大規模プロジェクトでは69%）が、AIによる貢献量が増加していると認識している。



質の低いPRをフィルタリングする



新規コントリビューションの4件に1件は、AIスロップです。大規模なプロジェクトでは、この割合は31%にまで上昇します。

AIを活用した貢献の優先順位付け

メンテナーの半数が、バグチェックやコードレビューにAIを活用しています。しかし、4人に1人はまったく利用していません。





レビューサイクルを効率化する

質の低い貢献と貢献数の増加が相まって、メンテナーのレビューに負担がかかっています。

スケーラブルな検証システムの構築

ポリシーとツールを活用することで、レビューの負担を貢献者に還元し、プルリクエストの品質を向上させ、メンテナーのバーンアウトのリスクを軽減することができます。



明確なAIガバナンスを確立する

AIの貢献を認める正式なポリシーを定めているプロジェクトは、3件に1件にとどまっています。



新しい貢献者へのメンタリングに投資しましょう

メンテナーの大半は、AIの導入によって貢献者への指導が「減る」のではなく「増える」必要があると述べています。



AIによる貢献の帰属を標準化しましょう

現在、貢献におけるAIの支援を常に開示しているのは10人中3人にとどまり、10人中2人は決して開示していません。



プレサブミッションテストの義務化

OSS開発者の5人中3人は、AIを活用した貢献内容をプレサブミッションテストで徹底的にテストしてから提出しています。



まずはAIガバナンスのリスクに対処しましょう

現在の障壁は技術的なものですが、AIの導入に消極的な企業にとっては、モデルの来歴、トレーニングにおける倫理、およびデータプライバシーの改善の方がより重要です。



OSS開発におけるAIの効率性を活用する

コーディング、レビュー、課題レポートの各工程で最大50%の時間短縮を実現します。メンテナーは、効率的なプロジェクト内の議論の恩恵を受けることができます。



Reinvest AIがOSSに還元



生成AIを活用することで、貢献者は技術的負債の解消、新機能の開発、スキルアップにより多くの時間を割くことができます。

Copyright © 2026 The Linux Foundation | October 2026. 本レポートは、 Creative Commons Attribution-NoDerivatives 4.0 International Public License.の下で提供されています。インフォグラフィックをご利用の際は、本調査レポートを引用してください。引用方法については、レポートの最終ページをご参照ください。